

2025（令和7）年度 委員会報告

助産師職能委員会

委員長 田中 純

1 委員会開催 8回

2 活動内容

(1) 研修会・講演会の開催

ア 助産師職能集会講演会

テーマ「新たな看護の将来ビジョンについて」

講師 公益社団法人日本看護協会 会長 秋山 智弥 氏

日時 令和7年6月21日（土）

会場 とちぎ健康の森

参加人数 20人

イ 新人助産師研修：前期

テーマ「母乳育児支援」

講師 自治医科大学附属病院 看護副部長 塚田 祐子 氏

内容 母乳ケアに関する講義および演習を実施し、現場で即活用できる実践的なスキルの習得を図った。母乳育児支援に必要なアセスメントやケアの要点を確認し、実技を通して理解を深める内容となった。また、グループディスカッションでは日々のケアの振り返りや課題の共有を行い、新人職員が半年間の成長を相互に認め合う研修となった。

日時 令和7年8月28日（木）

会場 栃木県看護協会研修センター

参加人数 25人

ウ 新人助産師研修：後期

テーマ「理学療法士が教える骨盤ケア ～自分の身体も整えよう～」

講師 国際医療福祉大学病院 理学療法士 武内 彩佳 氏

内容 産前産後にみられる姿勢や骨盤周囲の変化について理解を深めるとともに、身体を整えるためのストレッチを実践的に学んだ。講義と演習を通して、他者支援に応用できるケアの視点を得ることができた。また、グループディスカッションでは、学んだ内容を現場でどのように活かすかについて意見交換を行い、実践につながる取り組みを検討する研修となった。

日時 令和年8月20日（金）

会場 栃木県看護協会研修センター

参加人数 23人

エ 助産師相互研修「産科従事者研修会・交流集会」

テーマ「プレコンセプションケアの推進と現状について」

内容 栃木県内におけるプレコンセプションケアの活動状況および課題について情報交換を実施した。県内では取り組みが徐々に進んでいるものの、認知度の低さ、医療

者側の知識や体制のばらつきが課題として挙げられた。妊娠前からの健康支援に、どのように関わることができるかを検討する研修となった。

日時 令和8年1月17日（土）

会場 栃木県看護協会研修センター

参加人数 28人

(2) その他

ア 助産師だより ミッドワイフトーク

令和8年4月にホームページ「ミッドワイフトーク」第16号を掲載する。

イ 助産師のつぶやき 助産師のリレーメッセージ

県内で活躍する助産師のつぶやきをリレー形式で年2回掲載する。

5月・10月 原稿依頼先の検討、原稿依頼および原稿確認

7月・12月 原稿のレイアウト検討、原稿の修正

8月・3月 ホームページ掲載

3 まとめ（次年度の課題）

令和7年度は、母乳育児支援や骨盤ケア、プレコンセプションケアなど、助産師が担う幅広い領域について学びを深める研修を企画することができた。少子化や妊産婦の高齢化が進む中、助産師に求められる役割はこれまで以上に広がっており、妊娠・出産期だけでなく、妊娠前から産後、さらには女性の生涯にわたる健康支援が重要となっている。こうした状況を踏まえ、次年度は「助産師の専門性をより広く活かす体制づくり」が課題となる。助産師としての役割を十分に発揮できるよう、研修の充実、ネットワークづくりと交流の促進、そして情報発信の強化に取り組んでいきたい。